

2023年2月28日発行

神奈川イグレンの活動状況を伝える機関紙

## 神奈川イグレンニュース〈第233号〉

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事 芝 忠 編集：事務局長 愛賢司

〒231 - 0015 横浜市中区尾上町 580 神奈川中小企業センタービル 7F

TEL/FAX 045-228-7331 <http://www.kanagawa-igren.com>

(3頁)

(目 次)

- 川崎異業種研究会 10月・11月定例会報告 (1頁)
  
- テクニカルショウヨコハマ 2023 の報告 (3頁)  
まんでんプロジェクト事務局
  
- テクニカルショウヨコハマ参加レポート (4頁)  
株式会社 JOINT ASIA  
代表取締役 杉本希世志
  
- 「製造業の日本回帰と生産技術」そして『日本の現場力』 (4頁)  
神奈川県異業種連携協議会  
理事 愛賢司
  
- 「第97回西湘サロン開催案内」 (6頁)  
3月13日(月) 午後6時30分～8時00分(開場6時)  
: おだわら市民交流センターUMECO (TEL : 0465-24-6611)  
: 参加費 500円(当日)

話題： 人生100年時代の保険の仕組みと活用  
東京海上日動パートナーズ 提携代理店 額田 雅之氏

## 川崎異業種研究会 10月定例会報告

10月13日（木）、川崎商工会議所会議室にて10月定例会を開催した。今回は「中東に関する基本概要 ～中東ビジネスの展開」と題して、神奈川大学経営学部国際経営学科教授 田中則仁氏による講演が行われた。

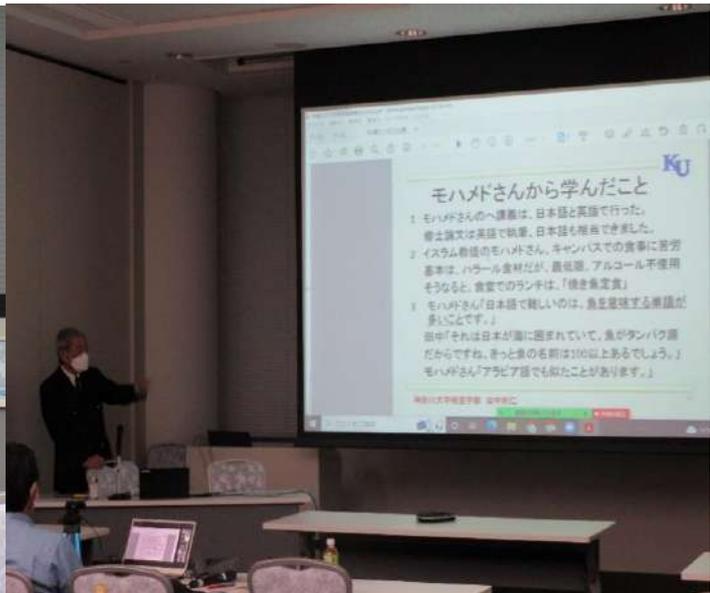
田中教授は、国際経営論・多国籍企業論がご専門。主に海外進出日系企業の事業活動やアジア地域での国際経営を研究テーマとされ、今回は自身のサウジアラビア及びオマーン滞在における経験談を元に、中東の社会経済やアラブ世界の概要、イスラム教に基づいた価値観など、多岐にわたるテーマについて説明を頂くとともに、オマーンからのモハメド留学生との交流を通じて、日本とオマーンとの食文化の違いなどの具体的事例から、異文化間コミュニケーションを学ぶことの重要性について伺った。

参加者は日頃なじみの薄い中東情報やイスラム社会について熱心に聴き入り、中東ビジネス展開のポイントや日本企業の進出状況などを知ることができ、和光大学小林ゼミ生もオンラインにて多数参加するなど、大変有意義な定例会となった。

講演後の懇親会においても、講師の田中教授を交えて、質疑応答や意見交換が行われるなど、活発な交流が行われた。



(講師の田中教授)



(異文化間コミュニケーションの重要性を学ぶ)

## 川崎異業種研究会 11月移動定例会「横浜海上防災基地等視察会」報告

11月は移動定例会として、11月10日（木）に移動定例会を行った。当日は日本大通り駅に集合し、まず海上保安庁第三管区海上保安本部「横浜海上防災基地」を視察。会議室にて基地概要や巡視船等の艦艇・航空機の紹介、テロ・海賊対策、海上犯罪取締り、海難救助、東京湾の廃水・廃棄物取締り等の業務説明を受けた。



(深さ 10mの深潜水訓練用水槽)



巡視船「ぶこう」の前にて)

続いて、施設見学に移り、全国制圧術大会会場にもなる武道場や潜水用水槽等をまわり、荒天シミュレーション用水槽では、特殊救難隊による迫力あふれる訓練が行われていた。岸壁には、世界最大クラスの巡視船「あきつしま」はじめ、大小巡視船が停泊していた。

質疑応答では、海上自衛隊との役割分担等について説明を受けた他、山崎企画係長より海上自衛隊と共にソマリア海賊対策に派遣された際、日本に逮捕・拘留されたソマリア人海賊が刑務所で日本語等を覚え、釈放・帰国時にはソマリアと日本との友好の仕事に就くまで更生した逸話が披露されるなど、参加者一同、海上保安庁の役割について見識を深めることができた。

次に隣接する海上保安資料館横浜館を見学。平成13年に九州南西海域にて発生した工作船事件で銃砲撃戦の末、自没した北朝鮮工作船を引き揚げ、回収した銃火器等と共に展示されていた。

続けてマイカップヌードルミュージアムを見学し、マイカップヌードル体験や館内見学を行った後、ワールドポーターズ内レストランにて懇親会を行い、会員同士交流を深めた。

最後に横浜の新観光名所として昨年開業した横浜ロープウェイに乗車し、横浜みなとみらい地区の夜景を鑑賞して視察会を終えた。



(マイカップヌードル製作を体験)

# テクニカルショーヨコハマ 2023 の報告

## まんてんプロジェクト事務局

第44回工業技術見本市のテクニカルショーヨコハマ 2023 が、2月1日(水)から2月3日(金)までパシフィコで「リアルに出会う。リアルに感じる。」をテーマに開催されました。前回に比べ今回は新型コロナとの共存を図りながら活動している企業や団体も多いためか、759社 573小間と大変賑やかでした。

「まんてんプロジェクト」では、プロジェクトの取り組みや会員技術の紹介をするために出展しました。ブースでは「まんてんプロジェクト」の紹介のパネルや「まんてんプロジェクト」の概要や全会員企業の得意技術を記したパンフを配布しました。また、本年度は募集しませんでした。昨年度応募されて残部があったカタログ展示などを行ないました。

来場者には「まんてんプロジェクト」の航空、宇宙分野の取り組みに関して説明を行いました。併せて、幅広い分野の会員の方々から構成されているコンソーシアムであることから、いろいろな課題に対応できることも伝えました。

「まんてんプロジェクト」会員企業からは、愛知産業(株)、(株)アイネット、荒木技研工業(株)、開明製作所(株)、高和電気工業(株)、スピック(株)、第一塗装工業(株)、(株)高井精器、(株)マエダ、山本ネジ工販(株)の各社が得意技術や製品を出展し関心を引いていました。今回の展示会の来場者は約 15,825名と前回に比べ倍近くで大変賑やかでした。

最近の展示会では展示ブースやセミナーにDXやIOTの取り組みに関わるテーマが多くみられます。今回の展示会でもこれらに関わるゾーンが設けられ活発に意見交換が行われていたようです。これらの取り組みへの理解は業務を進めていく上で大切かも知れません。まんてんプロジェクトでは年4回講演会を実施していますが、ものづくりに関わるこれらの動きもいろいろと取り上げていきたいと思えます。



テクニカルショーヨコハマの案内



まんてんプロジェクトのブース



会場の様子

## テクニカルショウヨコハマ参加レポート

株式会社 JOINT ASIA  
代表取締役 杉本希世志

間もなくポストコロナ時代がやってくる。今回のテクニカルショウ横浜に参加してまず感じたことはこれでした。

昨年（2022年2月）も会場を回らせて頂きましたが、今年は活気が明らかに違っており、来場者数も約15000人（速報値）と昨年の約2倍で、数字でもそれを裏付けています。出展内容に関しては、全体としてそれほど目新しいものは感じませんでした。中には一部新たな技術、商品の出店もみられました。中小企業の中でもこういったチャレンジが増えることが地盤沈下の進む今の日本において大事なことだと感じます。

一方で数社がアライアンスを組んで1つの新規製品を開発するというような、地域の結びつきや企業同士の横のつながりを前面に出す出展もみられました。こういった取り組みは、今後日本の産業の根幹を支える中小企業が活路を見出すためのヒントになるのではないのでしょうか。

最後に小職の本業である人材面に関して簡単に触れさせて頂きますと、現場作業員以上にエンジニア職の人材不足の声が多かったように感じました。また、こと外国人の採用に関しては、上手くいっているところとそうでないところの2極化が進んでいる印象です。コロナの状況が改善し景気が上向くことを期待しつつ、国際競争力の低下、人材不足といった根本的な課題にもしっかりと向き合っていく年にしなければならないと、改めて感じました。

### 「製造業の日本回帰と生産技術」そして『日本の現場力』

神奈川県異業種連携協議会  
理事 愛賢司

先日イグレン会員の中小企業の社長I氏とA大学教授の三人で雑談めいた情報交換をしていた時に、製造業の国内回帰の動きが話題になりました。国内回帰の大きな課題として「生産技術」と「人材確保」が指摘されていることに関してI社長から、大企業の生産技術力が相当劣化している現状が出されました。生産技術力の劣化は、製造現場の海外移転や安易な人員削減によるもので人材確保の面からもそう簡単には構築できるものではないことや、技術力のある中小企業の協力が今以上に不可欠になるのではないかと等へと話が（勝手に）展開していきました。I社長は、長年大企業の生産現場のFA化をサポートした実績があり、20年以上前に関わった部門から未だにメンテナンスの依頼が来るという実情も紹介されましたが、興味深いというよりちょっと笑えない現状かなという感を強くしました。

テクニカルショウでは、加工分野のいくつかのブースに足を運び「生産現場のマンパワーの確保はどうしていますか」「現状で必要な人材はどんな技術者か」という質問を投げってみました。回答の多くは「現場に若い人材は定着しない。生産機械の設置で対応している」「需要の変動に対応できるシステムが必要なので、工程管理分野の技術者だ」という内容でした。

技術者ではない立場で軽々に言えることではないですが、技術力とマンパワーの関りについて

ものづくりの現場というステージではどうなっているのかという問題意識で、技能五輪オリンピックの日本選手団の実績を調べたのが下の表です。

2001年から2011年のまでは、日本は1位～3位の位置を確実に占めていました。第39回は日本の開催だということで、特別な取り組みがなされたことは推測されますが見事な成績です。

2000年に入ってから顕著なのは韓国の台頭と第44回以降の中国の実績です。技能というマンパワーの領域がその国の成長と連動している面は否定できないのではないのでしょうか。低迷する経済成長、生産技術の劣化、人材不足等々の問題と以下の表で表れている状況を「現場力の低下」と評価するのは乱暴かも知れませんが、日本のモノづくりの問題の表出であるとは言えるのではないのでしょうか。

### 技能五輪国際大会における日本選手団の成績状況

開催年	回	日本のメダル獲得数			金メダル獲得上位2か国・地域名 ( )の数字は金メダル数
		金	銀	銅	
2001年	第36回	4	2	4	1位韓国、2位ドイツ、3位日本、オーストリア
2003年	第37回	6	2	4	1位韓国、2位スイス、3位日本
2005年	第38回	5	1	2	1位日本、2位スイス他、4位ドイツ他
2007年	第39回	16	5	3	1位日本、2位韓国、3位フランス
2009年	第40回	6	3	5	1位韓国、2位スイス、3位日本
2011年	第41回	11	4	4	1位韓国、2位日本、3位スイス
2013年	第42回	5	4	3	1位韓国、2位スイス、3位チャイニーズタイペイ 4位日本、オーストリア
2015年	第43回	5	3	5	1位韓国 (13) 2位ブラジル (11) 3位日本他
2017年	第44回	3	2	4	1位中国 (15) 2位スイス (11) 3位韓国 (8) <b>9位日本 (3) フィンランド (3)</b>
2019年	第45回	2	3	6	1位中国 (16) 2位ロシア (14) 3位韓国 (7) <b>7位日本</b>
2022年	第46回	8	5	5	1位中国 (21) 2位韓国 (11) 3位日本 (8)

地域の幅広い人材交流を目指した「神奈川新産学公交流サロン」

# 第 97 回西湘サロン開催のお知らせ

神奈川県異業種連携協議会（イグレン）事務局

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル7階

【日時】：2023年3月13日（月） 午後6時30分～8時00分（開場6時）

【場所】：おだわら市民交流センターUMECO (TEL:0465-24-6611)

【会費】：参加費 500円（当日）

\*次回 98回予定：2023年5月8日（月） 18:30～ 場所：UMECO

## 1. 話題： 人生100年時代の保険の仕組みと活用

東京海上日動パートナーズ 提携代理店 額田 雅之氏

平均寿命が延びる中で社会における生命保険の立ち位置も変化してきております。老後に向けた準備という視点から生命保険の仕組みと活用の仕方を考えてまいります。

参加申込

E-mail [yoshiike@maple.ocn.ne.jp](mailto:yoshiike@maple.ocn.ne.jp)

吉池

氏名	(参加人数： 名)	所属・役職	
住所		電話番号	( )
		FAX番号	( )
メールアドレス			